



皆さん、こんにちは。とりあえず激しい冬型天気は乗り越えたようですね。皆さんのご健勝をお祈りします。

最近の話題はオリンピックが中心でしたね。皆さんは見ましたか？羽生結弦選手はよかったね、金メダル2連覇なんてすごいね。私は最近よく「アメリカか日本かどっちを応援してるの？」と聞かれています。正直に言いますとどちらも特に応援していません。私はスポーツなどを見る時に〇〇チームに勝ってほしいというよりも、ただどちらもが頑張っていて、最善を尽くして、いい試合を見せてほしいだけです。一方のチームが試合の初めから大負けしていると面白みがなくなっちゃいます。最初から試合の結果が見えるより、最後の最後までワクワクして「さてどっちが勝つでしょう」と思いながら見るのが好きです。もちろん、最初に大きな点差があったところでカムバックを遂げて勝つことも大好きです。オリンピックにおいてもそう思います。選手一人一人がずっと鍛錬してきた技や体力を発揮した本人が一番納得するパフォーマンスが見たいので、どこの国が勝つかはそんなに気にしません。

…とは言っても、やっぱりアメリカが勝つといいけどね。

紀元前776年のギリシアで行われた初めてのオリンピックから今日に至るまで、世界のエリート選手たちは出場するために毎日毎日厳しいトレーニングで体を鍛えてきました。でも、今年の冬オリンピックで全くすごくない、平凡でまるで一般人レベルの人が話題になりました。スキーマーフパイプのハンガリーの代表エリザベス・スウェーニーの話は聞きましたか？ハーフパイプというイベントではU字のコースを右に左に滑りながら、壁の上についたら何らかのすご技を決めるイベントなのですが、スウェーニー選手はすご技どころか技一つさえも決めませんでした。決めようとさえもしなかったのです。彼女はただ下までゆっくりと滑って行ったそうです。本人いわく技なんてできないんだ…。



じゃあ、技ができない彼女がどうやってオリンピックの舞台に立つようになったのでしょうか？それはオリンピックのルールをうまく利用したのです。まず、アメリカ人のスウェーニー選手はアメリカの厳しいスポーツ界では無理だろうと思って、母方の祖母のハンガリー国籍を利用し、スキー選手の派遣計画がなかったハンガリー選手団に入りました。でも、オリンピックに出場するにはある程度の大会での成績を挙げなくてはならない、即ちトップ30に何回かならないとダメです。彼女は選手が30人以下の大会を狙って出場しオリンピック基準を達成しました。

ここで視聴者やコメンテーターの意見がかなり極端に分かれています。一派が「賢くルールを利用した彼女は褒めるべきだ」といい、他派が「彼女の出場はスポーツ精神に欠けるものだ」といっています。私の考え方は、彼女が出場したせいで出られなくなった選手もいないから実害はなかったし、ルールに従ったし、面白い話になるし、シリアスなオリンピックにユーモアをはさんで、むしろみんなにとっていいことじゃないか？と思います。皆さんはどう思いますか？

では、また今度。

-ジェフ

**塾のコンビニ！英語塾**

阿賀野市教育委員会 学校教育課

Tel 0250-62-2790 e-mail gakkokyoiku@city.agano.niigata.jp

